

県民運動情報誌「ネットワーク」

“こころ豊かな美しい兵庫”をめざして

特集 「地域資源を活かしたふるさとへの活性化」

編集発行 ころる豊かな美しい兵庫推進会議（兵庫県企画県民部協働推進室内）
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 TEL 078-362-3136



愛称：ココロン

阪神北

文化資源を活用したふるさとへの活性化

猪名川木喰会 会長 岡本 信司（猪名川町）

猪名川町には、木喰仏や多田銀銅山、屏風岩など、歴史的・文化的資源が豊富に存在します。これらの資源を活用するという視点で、様々な取り組みを進めてきました。

例えば、①木喰仏や屏風岩の案内パンフレットの大学生との連携による「大型の屏風岩解説パネル」③会員が役者となったDVD「木喰のほほえみ」④紙芝居「わしは木喰さん」⑤機関紙を再編集した「五十年後も残したい北摂の文化財探訪」の作成や⑥これまでの事業を通じて知り合えた大学教授による講演会の開催などです。他団体も巻き込みながら十五年にわたり継続的



木喰仏見学バスツアー

○問い合わせ先
猪名川木喰会 岡本
電話 090 (5258) 3990

に行うことができ、まちづくりに貢献してきたと自負しています。今後も、地域資源を活用したまちづくりを展開し、地域交流活動を盛んにし、ふるさとを元気にしていきたい。

北播磨

歴史遺産を活かした地域活性化

やるじゃんかさい 代表 村上 尚美（加西市）

加西市の鶴野飛行場は第二次世界大戦中につくられ、優秀なパイロットを養成するための姫路海軍航空隊、「紫電改」を組み立てる川西航空機の工場が置かれました。また、神風特攻隊・白鷲隊も編成されました。現在も滑走路や機銃座など、多くの戦争遺跡が当時のまま残されています。



夏の飛行場展のようす

○問い合わせ先
やるじゃんかさい
鶴野飛行場資料館ホームページ
<http://uzurano-hikoujou.com>

また、元海軍パイロットや元特攻隊員などを招いての講演会、戦争遺跡をめぐるツアーを定期的に開催しています。

西播磨

伝統産業「皆田和紙」でファッションショー

佐用町ファッションショー実行委員会 長谷川 愛（佐用町）

その時に地元に戻り友達に会ったりする元伝統産業継承活動の一翼を担いたいと考えています。



皆田和紙のファッションショー衣装

○問い合わせ先
佐用町ファッションショー実行委員会 長谷川
電話 0790 (82) 2434

丹波

農業ボランティアで広がる交流

西紀南まちづくり協議会 代表 北山透（篠山市）

丹波黒豆の生産地で有名な篠山市西紀南地区では、高齢化する地域の将来を見すえ都市との交流を推進しています。四年前からは都市部の方にボランティアとして黒大豆の植え付けなどを手伝ってもらっています。今ではこうした交流が毎月一回のペースとなっており一回あたり約一〇名の方が参加されています。



農家による学生への実施指導

○問い合わせ先
西紀南まちづくり協議会事務局
電話 079 (506) 1056

流が継続しているのは地域も都市から来る人も楽しんで関わっているからではないかと考えています。これからも楽しみながら交流を広げていきたいと思っています。

今回は、生まれ育ったふるさとで、地域資源を活かし、ふるさとを活性化するために奮闘しているお二人が、知事と語り合いました。
【出演者】
KOJI OKAMOTO DESIGN OFFICE 代表 岡本 剛二さん
灘菊酒造株式会社 杜氏 川石 光佐さん
兵庫県知事 井戸 敏三
※この対談は、平成二十七年八月に収録しました。

ふるさとに「インターン」するまで

岡本 新温泉町に生まれ高校まで育ちました。高校時代、夏休み・冬休みに美大に行くための講習を東京や大阪に受けに行くと、都会には華やかなファッションブルな人たちが多く、あいう洋服を着てみたいと強く思うようになりました。ファッションに興味をもつことにより、友達が増え、色々な人から声をかけてもらえるようになって、内向的だった自分が変わったように、僕も洋服に携わることにより、人の人生の後押しが出来ればと思うようになりました。そして、洋服のデザイナーを目指し、大阪の専門学校で三年間勉強し、好きなブランド「adabhouse international」に入ることで、八年間アシスタントデザイナー、その後デザイナーのトップであるチーフデザイナーに五年間携わらせてもらいました。その間も生まれ育った地元が大好きだったので、毎年必ず戻っていたのですが、帰るたびに活気がなくなっていくのを見て、これは自分たちのせいじゃないかと思ひ今まで培ったデザインで今度は生まれ育った町に何か貢献できないかと思ひ始めました。

知事 自分たちのせいじゃないかとい

だから、ふるさとに元気がなくなったと思ったのですか。



井戸知事

岡本 同年代も半数ぐらいは都会に出ていってしまい、地元若者や子どもたちが減ってしまったので、戻って何か出来ないかと思ひました。将来は地元を基盤を置いて、自分のブランドを持ちたいという夢も持っていたので、三年前に戻り「KOJI OKAMOTO DESIGN OFFICE」を立ち上げた。トリノを構えて、デザインを地域から発信しています。

知事 ふるさとに帰るといのは、すごく思い切った決心でしたね。

岡本 自分が高校の時に洋服のデザイナーになりたいと思ひ、頑張った結果、その夢が叶ってしまったんですね。でもデザイナーになって以降の夢が思い描けていなくて迷っていた時があり、

ると、地元のよさや魅力が見えるようになってきたんです。新温泉町も但馬牛や温泉などいろんな資源があるので、地元に戻って、そういう物を新しい形にデザインしたいと思ひました。

知事 一度、大阪や東京に出ているから、ふるさとのよさを再評価できたというところがあるのでしょうか。夢がある程度実現してみると、田舎もなかなかおもしろいじゃないかと思ひたわけですね。



岡本 剛二さん

杜氏になるまで

川石 姫路生まれの姫路育ちです。実家が灘菊酒造という酒蔵を経営しており、私は三女として生まれました。酒蔵は代々家族でやっていますので、誰かが継がないといけないという状況がありました。高校三年生の時に日本で唯一、醸造学を勉強できる学科がある東京農業大学醸造学科に行くのもひと

この道だという風に教えてもらい、その時は東京に行けるのだったというぐらいの気軽な気持ちで進学しました。大学三年生の時にインターンシップで、栃木の蔵元に行きました。その当時、一般的に酒は五十歳、六十歳のパテランの農閑期の出稼ぎの蔵人たちがつくるものだったのですが、その蔵は、四つ上の農大を卒業されたご子息が杜氏をされていたんです。二十六歳の人が杜氏をやっていること自体がイレギユラーでしたし、経営者がつくるということもその当時はなかったもので、酒づくりは蔵元である経営者とは別の職人がするものかと思っていました。もしかしたら自分でもできるのかもしれないなと思いつきかけになりました。大学を卒業する時は迷いましたが、大学で勉強をした私が早く帰って自分のできることを家の中で探すのもいいのではと思いい家に帰りました。

地域資源を活用した取り組み
■魅力を伝える
知事 現在のお仕事を説明いただきましたが、今の段階でこれから何をされるようと思われていますか。
川石 いろいろな日本酒を知ってもらいたい、週一回ぐらい飲むことを、二十代、三十代の方に提案したいと考えていて、来週の水曜日（九月二日）も、「スローフードな縁日」というイベントを播磨の若き醸造家六蔵元により姫路で開催します。縁日スタイルの気軽な形で、播磨地域のおいしい食材も集め、姫路城の夜景を見ながら飲むというイベントで、気軽に日本酒を飲んでもらうきっかけになればと思っています。

味無臭の天然温泉で洗ってみると、パリッとした感じではなくナチュラルな雰囲気が出ました。
もう一つのチェックのシャツは、糸から作っているんですけど、広島の人さんに藍染めをデニムで染めるような染め方で糸を染めてもらい、それを西脇で播州織りをされている同世代の職人さんにオリシナルでチェック柄を編んでいただき、できたものです。
今は、一点一点を多く生産してないので、自分の思いや職人の思いを極力、形にする洋服づくりをコンセプトにしています。

知事 鹿革を扱う所とうまくタイアップしてもらえるとありがたいですね。
■地元産原料にこだわった酒づくり
知事 川石さんは、どのような新しい取り組みをされていますか。
川石 私の中の酒づくりでは、灘菊らしさイコールこの姫路らしさ、地元らしさをすごく大事にしようと思っています。みなさんご存じだと思いますが、兵庫県には山田錦という酒米があり、私も酒を造っていて山田錦のそのすばらしさ、優秀さというものは本当に身をもって感じています。北海道のお酒を見ても、九州のお酒を見ても山田錦を使っている、山田錦は全国ブランド。ただ、うちの姫路らしさ、灘菊らしさを出すときに、どこにらしさが出るのだろうなと思った時に、西播磨には「兵庫夢錦」という西播磨の気候条件に合うように開発された酒米があるので、七年前から市川町の農家と契約して兵庫夢錦を使っています。市川水系で育ったお米と市川水系の井戸で醸したお酒は、うちでしか作れないお酒だと思っており、特に夢錦を使った酒づくりの力を入れています。

それと、播磨地域の庭田神社で採取された酵母菌、麹菌、地元産の米と水、オール播磨の要素でスパークリングの日本酒を作ろうと開発段階中です。

川石 鎌田杜氏という腕のいい杜氏と一緒に酒づくりを三年し、多くのことを教えてもらいました。ただ、三年経った時に鎌田杜氏が高齢で退職することになったんです。そして、鎌田杜氏の後押しもあり、不安もありましたが、私が杜氏を引き継ぐことになりました。

知事 すこいでですね。それで実家の蔵元で酒づくりをしていた南部杜氏の方に指導を受けたのですか。
川石 鎌田杜氏という腕のいい杜氏と一緒に酒づくりを三年し、多くのことを教えてもらいました。ただ、三年経った時に鎌田杜氏が高齢で退職することになったんです。そして、鎌田杜氏の後押しもあり、不安もありましたが、私が杜氏を引き継ぐことになりました。

知事 今、県でも鹿革の加工に取り組んでいます。鹿革は洋服にはならな
川石 鹿革は強度が強く、ほくも鹿革の商品を先シーズン作りました。ミリの三分の一のコンマミリまで薄くしても、破けません。
鹿の獣被害がすごく問題になっていますが、上手くコラボレートして、皮を商品にすることができたらと考えています。

知事 Uターン経験を活かした取り組み
知事 岡本さんは、地域の素材を活かして、デザイン的にも岡本流を賣こうとされていますが、これからどういう方向を目指そうとされていますか。



川石 光佐さん

川石 今、ものづくりの生産地が海外にシフトし、ものづくりがほとんど日本から離れていっています。しかし、日本にはまだまだ魅力があるもの、歴史や文化とかすごく深いものがあるので、もっとそういうものを形にするようなデザインを、今後も続けていきたいなと思っています。

知事 今、県でも鹿革の加工に取り組んでいます。鹿革は洋服にはならな
川石 鹿革は強度が強く、ほくも鹿革の商品を先シーズン作りました。ミリの三分の一のコンマミリまで薄くしても、破けません。
鹿の獣被害がすごく問題になっていますが、上手くコラボレートして、皮を商品にすることができたらと考えています。

知事 Uターン経験を活かした取り組み
知事 岡本さんは、地域の素材を活かして、デザイン的にも岡本流を賣こうとされていますが、これからどういう方向を目指そうとされていますか。

岡本 今、ものづくりの生産地が海外にシフトし、ものづくりがほとんど日本から離れていっています。しかし、日本にはまだまだ魅力があるもの、歴史や文化とかすごく深いものがあるので、もっとそういうものを形にするようなデザインを、今後も続けていきたいなと思っています。

川石 こちらが、山田錦を100%使った純米大吟醸です。
知事 「きくのしずく」。これはおいしいお酒ですよ。
川石 ありがとうございます。私は、ずっと食事に寄り添えるものをつくっていきたく思っていますので、しっかりとした味わいになっています。

岡本 やっぱ、地元が元気になっていって欲しいので、今まで培ってきたデザインを活かして地元を元気にするのはもちろん、自分のブランドももっと盛り上げていけたらと思います。
知事 川石さんはいかがですか。
川石 私は、日常で日本酒が飲まれるような、一般家庭に浸透するような酒をつくってきたいというのがまず心にあります。それと米という単一の原料でこれだけバラエティ豊かにつくれる技術はもっと世界に発信していくべきものだと思います。輸出にも力を入れたいです。もう一つ、兵庫県は日本一の日本酒生産県ですが、知らない人が多いんです。この間、東京の酒販店に行った時もみなさん兵庫が日本一と思っていました。

知事 私も乾杯に行く予定です。
川石 ぜひ姫路までいらしてください。知事 岡本さん、川石さんには、若い力で、地域の代表地場産業をしっかり確立して、ブランド力を高めるように頑張ってください。ありがとうございます。

それと、自分がUターンした経験を活かして、「新温泉町HOT-NEET」というサイト作りを進めています。地域の住む情報、仕事の情報、「巡RUN?」で培ったいろんな地域情報、お祭りやイベント情報などを、全ての一つのサイトで情報提供できるサイトを作ろうとしています。住むところの情報は、今空き家が大変増えてきているので、空き家を自分たちメンバーで改築できることは改築シテータにまとめられる。仕事の情報は地元新温泉町の商工会に協力いただいて掲載。そして地域の祭りごとなど、今後は「巡RUN?」で発信してきたことをくっつけて、具体的な新温泉町の活性化につながるようなものをつくりたい。デザイナーとしては企画という部分では通ずる部分があります。

知事 「MISA33」は一度飲んでみないとイケませんね。
川石 ぜひ。召し上がってください。

知事 私たち木津太鼓は、「礼に始まり、礼に終わる」「地域住民と協力、共同し親睦を深める」の基本理念のもと、神戸市立木津小学校区において、小学生までの子どもと大人と一緒に和太鼓演奏の活動に取り組んでいます。地域は二ユータウンと農村部が共存しています。が、明石川流域に土くから開けており、数多くの伝統文化も残っています。
こうした背景を生かし、夏祭り等で和太鼓を演奏して地域のみんなに喜んでいただき、祭りを盛り上げ、人びとの交流に役立てています。演奏を通じて、子どもたちが、練習を続ける努力と本番で演奏する緊張感、人びとに喜んで

知事 鹿革を扱う所とうまくタイアップしてもらえるとありがたいですね。
■地元産原料にこだわった酒づくり
知事 川石さんは、どのような新しい取り組みをされていますか。
川石 私の中の酒づくりでは、灘菊らしさイコールこの姫路らしさ、地元らしさをすごく大事にしようと思っています。みなさんご存じだと思いますが、兵庫県には山田錦という酒米があり、私も酒を造っていて山田錦のそのすばらしさ、優秀さというものは本当に身をもって感じています。北海道のお酒を見ても、九州のお酒を見ても山田錦を使っている、山田錦は全国ブランド。ただ、うちの姫路らしさ、灘菊らしさを出すときに、どこにらしさが出るのだろうなと思った時に、西播磨には「兵庫夢錦」という西播磨の気候条件に合うように開発された酒米があるので、七年前から市川町の農家と契約して兵庫夢錦を使っています。市川水系で育ったお米と市川水系の井戸で醸したお酒は、うちでしか作れないお酒だと思っており、特に夢錦を使った酒づくりの力を入れています。



(左) 純米酒「MISA33」
(右) 純米大吟醸「きくのしずく」

神戸

和太鼓演奏活動によるふるさとづくり
和太鼓集団木津太鼓 団長 仁禮 義治（神戸市西区）

私たちが木津太鼓は、「礼に始まり、礼に終わる」「地域住民と協力、共同し親睦を深める」の基本理念のもと、神戸市立木津小学校区において、小学生までの子どもと大人と一緒に和太鼓演奏の活動に取り組んでいます。地域は二ユータウンと農村部が共存しています。が、明石川流域に土くから開けており、数多くの伝統文化も残っています。
こうした背景を生かし、夏祭り等で和太鼓を演奏して地域のみんなに喜んでいただき、祭りを盛り上げ、人びとの交流に役立てています。演奏を通じて、子どもたちが、練習を続ける努力と本番で演奏する緊張感、人びとに喜んで

知事 最後、それぞれこれからの抱負を一言ずつおっしゃってください。
知事 川石さんにも持ってきてもらったお酒について説明してもらえますか。

知事 最後、それぞれこれからの抱負を一言ずつおっしゃってください。
知事 川石さんにも持ってきてもらったお酒について説明してもらえますか。



子どもと大人が一体となった町おこし演奏
〇問い合わせ先
和太鼓集団 木津太鼓 仁禮（にれい）
電話 090（6242）2034